



TCA ニュース

発行：東京サイクリング協会 広報委員会

2018年2月発行【No. 307】

<http://tokyo-cycling-association.com>

〒104-0061 中央区銀座7-15-11-1201 Tel・Fax 03-3541-6540

サイクリストの五楽 ①輪楽・自転車を楽しみ ②行楽・旅を楽しむ ③道楽・道を楽しむ ④友楽・友と楽しむ ⑤遊楽・遊びを楽しむ



渡良瀬ミーティング & 1泊ランのお誘い(前泊希望者限定)

今回も渡良瀬ミーティング前泊を計画しました。

残念ながら毎年利用していた館林CCが閉鎖されておりますので場所が変わります。

今年は、茨城県古河市のJR古河駅前「ホテル津賀屋」を予約しました。

翌日の渡良瀬ミーティングへのサイクリングコースが楽しそうです。

今回も神奈川サイクリング協会(KCA)と、TCAの合同宿泊です。駅前旅館の感覚なので、バストイレは別ですが、お安くなっています。

サイクリングコースは、コースリーダーの北川さんが模索中ですので乞うご期待です。

◆日程：2018年4月7日(土)～8日(日) 1泊2日

雨天、強風でも一泊ランは決行します。(この場合は楽ではありません。)

但し、雨天の場合、渡良瀬ミーティングは中止となる可能性があります。

◆宿泊場所：ホテル「津賀屋」

〒306-0023 茨城県古河市本町2-1-8 (電話：0280-32-0538)

最寄駅：JR古河駅より徒歩にて1分

◆コース：土曜日⇒計画中(出発時間になりましたら、走り始めます。)

遠くから自走される方はできるだけ複数名で走ってきてください。

直接宿へ行かれても結構です。(申し込み時にその旨お伝えください。)

日曜日⇒渡良瀬ミーティングに参加します。その後は三々五々帰路につきます。

◆予算：8,000円(一泊二食) TCA会員限定

◆定員：20名程度を想定していますが、先着順で締め切りとなります。(女性の場合には部屋の調整可能)

◆申し込み：東京サイクリング協会事務局へ連絡、定員の空きを確認の上、事務局に振り込むか、事務局まで持参下さい。(電話：03-3541-6540)

◆その他：①駐輪場は、屋内フロント前に駐輪させていただけるようになりました。

②チェックインは16:00からとなります。



Pottering Tokyo Region

《本佐倉城跡編》

JR成田駅から印旛沼の国史跡本佐倉城跡と長嶋茂雄記念岩名球場を巡ります。信号の少ない一般道を時速20キロでストレス無く走りましょう。昼食は宗吾霊堂の「しのぶ」の和食（海鮮丼定食がおすすめ）を予定しています。

開催日： 2018年4月15日(日)

集合時間と集合場所：10時(出発10時30分)JR成田駅東口広場（京成線は京成成田駅西口から徒歩2分）

解散時間と解散場所：15時ごろ JR成田駅前解散



JR 成田駅東口



走行ルート（5kmラップ）



②本佐倉城跡



③長嶋茂雄記念岩名球場



④金メダルジョギングロード

ルート予定：JR成田駅前—本佐倉城跡—長嶋茂雄記念岩名球場—高橋尚子金メダルジョギングロード—双子公園—和食「しのぶ」（昼食）—JR成田駅前（走行約38km）

◆参加費：TCA会員無料。（事前に参加の連絡をいただくとありがたいです。）一般の方は1000円（現地でお支払いください）。

◆連絡問い合わせ：tca-tokyo@tokyo-cycling-association.com

または事務局（03-3541-6540）へ。

「問い合わせ」して2日を経ても応答メール無きときは事務局へご連絡下さい。

◆担当：河野照夫（コースリーダー：松本哲也）

◆その他：・本行事参加にあたっては、道路交通法を遵守するとともにマナーを守り安全運転に努めて下さい。・ヘルメット・グローブの着用をお願いします。・本行事中の事故は全て自己責任とします。

・雨天中止：雨天の判断は開催日前日の夕方6時53分からのNHK総合テレビの千葉の天気予報で午前または午後が雨の時

～*～



「国際都市東京の自転車政策は何処に向かうのか？」

受講感想文

TCA会員 谷澤 猛

1月18日土曜日「雑司が谷地域文化創造館」において、『国際都市東京の自転車政策は何処に向かうのか？』という講演会を聞いた。

開会の挨拶で小泉会長から「内海さんには国会で自転車活用推進法の成立に応援と協力をしてもらった。本日も宜しくお願いします。」との挨拶で始まった。

講師は、NPO法人自転車活用推進研究会の事務局長を務める内海 潤氏で「国会の議員連盟の事務局の事務局のような立場で協力させていただいた。」と自己紹介し51歳の若さで多方面で活躍していることを知った。

今年五月に施行された自転車活用推進法は 昨年2016. 12. 16に成立した。

この法律は自民、民主、公明、共産全ての会派の賛成を得て成立した法案である。

東京人口1371万人 都内道路24500キロ。その9割が区市町村道路であることを認識すべきである。

現在は歩道を自転車が通行し盲人が自転車に杖を折られる事故例もあるほど安心して暮らせない状況にある。

ニューヨークも道路に自動車があふれていたが、車道を減らし歩行者天国を増やしたことで人が増え商店街に活気が増した。

20世紀の道路行政は自動車の効率的活用を目指して整備してきたが、21世紀は歩いて暮らせる街づくりを目指すべきである。

世界では人気スポーツの一位はサッカー、三位が自転車だ。日本の国土が狭いというがヨーロッパと比べれば広い方。

自転車王国のオランダ、デンマークは東京に比べ人口も少なすぎて参考にならない。

東京と同じぐらいの規模のロンドンは車を減らし、自転車を増やすことに成功した。

自転車のことばかり考えるだけではダメ、交通体系のバランスをとる必要がある。

これまでの公共交通の役割は、点と点をむすんでいたが、これからは面的に移動をのばす公共交通機関としてのシェアサイクルを活用すべきだ。

自転車も輪行袋に入れずバスに積めるようにして補完できるようにすればよい。

都内はもとより全国各地の事例紹介とともに世界の街づくりの事例が紹介された。

自転車活用推進法のポイント は、自転車を普及させ、公共の利益の増進に資することだ。

今思うと自転車活用推進法の不十分なのは、道路上での自転車の優先順位が不明確であった（第1に歩行者、第2に自転車、第3が自動車など明確にしてほしかった）。

もう一つは、法律の目的に曖昧さが残った。関係省庁の総花的作文という感じがする。

超党派で賛成されたため反対の立場からの議論が不足していた。

ハードとソフト整備に加えて都道府県市区町村の実情に応じた活用施策に期待する。

ただし担当者の理解のレベルが低いケースも多々見られる。

利用者としての自転車関連団体がしっかり行政を支援していく必要がある。

自転車活用推進法はまだスタートラインにたったばかり。

自転車のまちづくりのポイントは「わかもの ばかもの よそもの」によって推進されることを知るべきだ。

しまなみ海道の成功も、初めは利用者は少なく低空飛行だったが、地元を巻き込み協力者を増やしボランティアを増やし、観光客にリピーターが増えて、人気は爆発した。

渦は自分たちで作るものだ。

TCAは社会的認知度を上げてツアー オブ ジャパンの先頭パレードに立って欲しい。

タンデム普及を推進してほしい。すでに合法化されているのは16府県。東京の合法化にもTCAは貢献して欲しい。

TCAは社会的に認知度が低いのではないか？

もっと知名度を上げ社会的活動をして欲しい。との大きな期待を示された。

東京の動きは常に日本全国が見ている。TCAは全国のお手本になる位置にいる。

TCAは政治力行動力を併せ持つ小泉会長を持ち腐れにせず積極的に自転車活用推進のための活動を進めてほしい。

TCAの活躍に期待する言葉で講演は終わった。

その後会長の発言があった。

自転車活用推進法が施行されたのでTCAとしても今まで以上に最大限の努力が必要だ。

TCAは東京ブランドの情報発信者として有利な立場にいる。

会員や社会の期待に応えるには自分たちの会費だけでは限界がある。

地方自治体やさまざまな企業や団体の力を借りる必要がある。

事業を行う自助努力も必要だが社会的信用を獲得し様々な団体の力を借りる道もある。

そのもっともいいのは公益法人になることだ。

そうなれば会員も増え、有能な人材も集まってくる。

講習後、いろいろな方々の話を総合すると以上のようなことを話されたように理解した。

刺激的で本質的問いかけをされたエンディングとなった。

以上